

弾薬庫保管倉庫に係る土壌汚染調査結果について

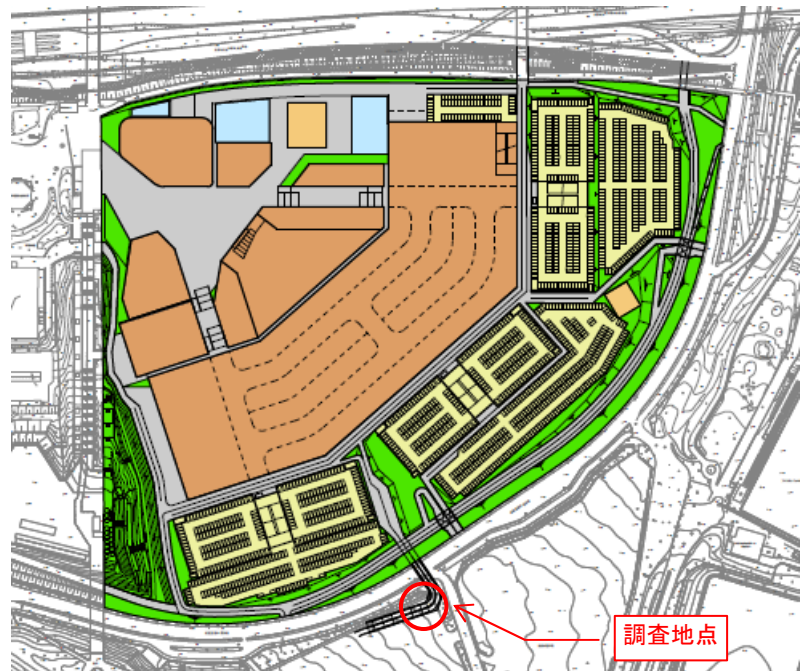
1. 調査目的

(仮称) エキスポランド跡地複合開発に伴い大阪府道 1 号茨木摂津線を跨ぐ上空通路を計画しており、先行して実施した土地の利用履歴調査において土地の形質変更を行う範囲の一部に土壌汚染が存在するおそれ（第二次世界大戦中、弾薬庫が設置されていた）があるため、当該箇所を調査対象地として土壌汚染状況を把握することを目的として自主的に実施した。

2. 調査場所

大阪市吹田市千里万博公園 3 番地 万博記念公園南第一駐車場内（住居表示）

弾薬庫が立地していた当時の地盤高は、日本万国博覧会による造成が行われる前である昭和 38 年の地形図と同程度（現況 GL-7m 以深）と推定される。具体的には、ボーリングによる試料採取時に土質を観察して判断した。



3. 調査機関

ランドソリューション株式会社（指定番号 環 2003-1-261）

4. 特定有害物質の使用履歴

土地の利用履歴調査の結果、対象地内で特定有害物質の使用履歴は確認されなかった。しかしながら、今回の調査地点において第二次世界大戦中、海軍により弾薬庫が設置されていた箇所があることが確認された。当時の弾薬に使用されていた物質のうち、有害物質を含むものとしては、砲弾（金属鉛を含む）と、信管の起爆剤として使用されていたアジ化鉛（鉛を含む）及び雷酸水銀（水銀、シアンを含む）があり、汚染のおそれがある物質としては、鉛・水銀・シアンが考えられる。

5. 調査対象物質の選定

土地の履歴調査の結果から、本調査ではシアン化合物、水銀及びその化合物、鉛及びその化合物を調査対象物質とした。

6. 調査結果

調査対象地周辺は、大阪層群と呼ばれる砂、礫、粘土からなる地層が分布している。日本万国博覧会時の造成工事では周辺で発生した土砂を埋め戻しに利用しており、調査対象地は大阪層群による自然地盤上に大阪層群の土壌で盛土している状況にある。

本調査で得られた土壌試料を観察した結果、A1-2ではGL-6.9m～7.0mで植物根を混入する旧表土が確認され、その直下ではシーム状に細砂が混じる粘土が確認された。A1-3ではA1-2同様にGL-7m程度から粘土質の土壌が確認されたが、明確に旧地表面であったことを示すものは確認されなかった。ただし、GL-7.25mからはシーム状に細砂が混じる粘土が確認されたが、その直上では粘土と細砂が乱れて堆積しており、自然に堆積したものではないと考えた。よってA1-2ではGL-6.9m（深度6.6m）を、A1-3ではGL-7.25m（深度6.9m）を旧地表面と判断し、そこから0.5mまでの土壌試料を分析に供した。

土壌試料の分析の結果、いずれの調査地点についても調査対象物質は全て基準に適合していた。各区画における分析結果等を下記の表にまとめた。

区画番号	採取深度 (m)	標高 (m)	資料 採取日	分析日	土壌溶出量調査(mg/l)				土壌含有量調査(mg/kg)		
					シアン化合物	水銀及び その化合物	アルキル水銀	鉛及び その化合物	シアン化合物	水銀及び その化合物	鉛及び その化合物
					検出されないこと	0.0005以下	検出されないこと	0.01以下	50以下	15以下	150以下
A1-2	6.6-7.1	47.290	平成25年 10月31日	平成25年 11月1日	不検出	0.0005未満	不検出	0.003	2未満	0.1未満	11
A1-3	6.9-7.4	47.109		11月13日	不検出	0.0005未満	不検出	0.001	2未満	0.1未満	8
定量下限値					0.1	0.0005	0.0005	0.001	2	0.1	1

7. 評価

本調査の結果、調査対象物質による基準超過は確認されなかった。よって、調査対象地には土壌汚染がないものと評価する。